

# 令和3年度 東京都入札監視委員会

## 第2回 制度部会

- 日時：令和4年1月26日（水） 午後1時30分から
- 会場：都庁第一本庁舎北側33階 特別会議室N1  
( ※上記会議室を拠点としたオンライン会議 )

### ○ 次 第

- 1 開会
- 2 出席者及び定足数の確認
- 3 議事進行の説明
- 4 資料の説明
- 5 審議
  - (1) 施工時期等の平準化について 資料1
- 6 閉会

## 令和3年度東京都入札監視委員会 第2回制度部会

### 出席者

#### 部会構成員

(敬称略)

部会長	東京大学大学院工学系研究科教授	堀田昌英
委員	東北公益文科大学准教授	斉藤徹史
委員	(元)品川リフラクトリーズ(株) 代表取締役副社長	仲田裕一
委員	弁護士	原澤敦美

#### 都側職員

財務局 経理部長	古川浩二
財務局 契約調整担当部長	小泉雅裕
財務局 経理部 契約調整担当課長	松永慎平
財務局 経理部 契約調整技術担当課長	高柳睦夫
財務局 経理部 調整担当課長	三浦裕之

## 1. 前回の制度部会でのご意見（要旨）

- 平準化の施策がどれだけ平準化を促したのかをもう少し具体的に示してほしい
- 設計等委託の目標では2～3月に履行期限を迎える割合以外にも配慮すべきことがあるのではないか
- 設計等委託の平準化がボトルネックとなり、工事の平準化にも影響しているのではないか

## 2. 令和4年度からの取組の考え方

### ■ 取組期間

- ・ 予算要求から事業完了まで複数年度が必要
- ・ 今後、事業計画の段階から平準化の取組を反映
- ・ 現行は3年(R1～3年度) ➡ **5年程度で検討**

### ■ 工事

- ・ 全体では目標に向け堅調に推移
- ・ 局ごとでは進捗や取組に温度差がみられる

➡ **見える化を図り各局の取組を促進**

### ■ 設計等委託

- ・ 現在も履行期限の6割が第4四半期に集中
- ・ 工事に比べ、工期12か月未満の案件のうち、債務負担行為を活用する案件の割合が少ない
- ・ 国では第4四半期で一定以下の割合を設定
- ・ 一層の努力が必要な状況

➡ **債務負担行為等により第3四半期までの割合を増加  
(1～3月履行期限の割合での目標設定を検討)**

**見える化とあわせ各局の取組を一層加速**

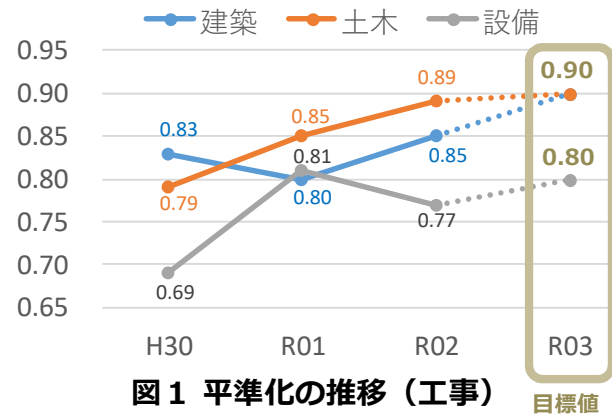


図1 平準化の推移（工事）

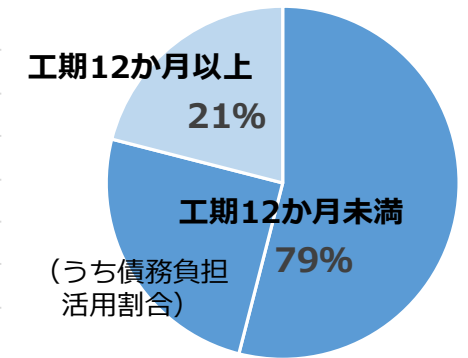


図2 R2年度発注件数の割合（工事）

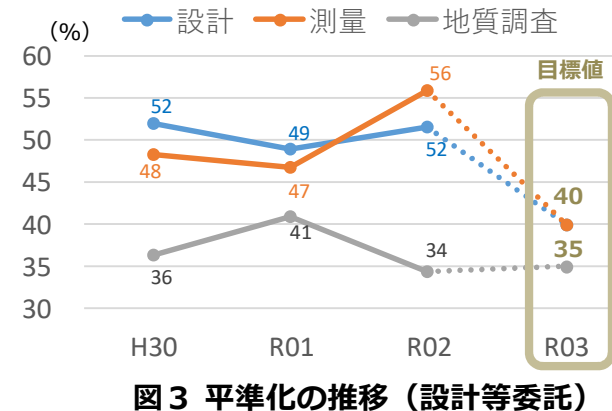


図3 平準化の推移（設計等委託）

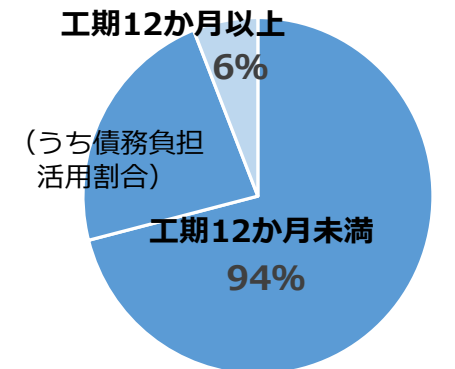


図4 R2年度発注件数の割合  
(設計等委託)

# 施工時期等の平準化について

## 3. 取組の具体案について [関係部署との連携強化]

### 視点：関係部署との連携強化

＜前回制度部会資料より＞

- 一層の平準化の推進には、起工部署や計理部署、契約部署等の関係部署が連携する必要
- 平準化の意義や重要性について、様々な機会を捉え周知徹底

### 例えば…

- ・ 東京都技術会議、東京都工事関係基準協議会や東京都建築協議会など全庁の技術系会議を活用
- ・ 各局の技術担当課長会等の会議の場も活用し、事務所の起工課等へも直接情報を発信
- ・ 平準化の取組をより一層推進するため、定期的な情報発信を実施
- ・ 各局で取り組んでいる実例を水平展開、工夫の共有
- ・ 平準化の計画作成をサポートするための支援ツールを作成 など

※ 技術者配置準備期間を設定することで工事着手に向けた事前準備が可能

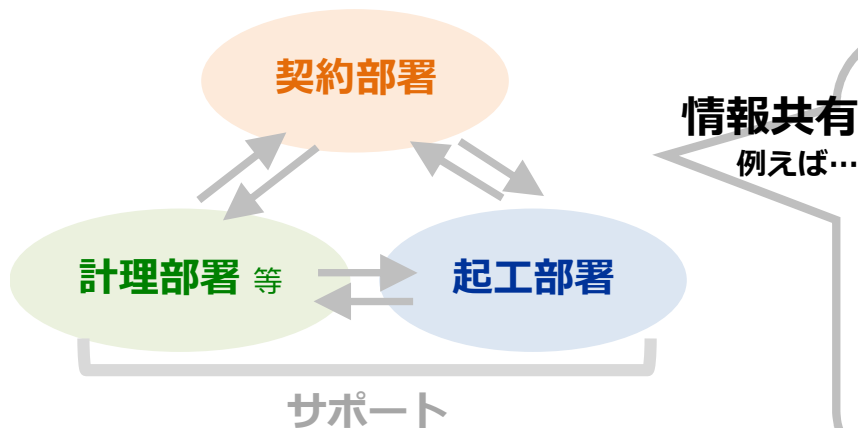


図5 連携イメージ

情報共有  
例えば…

	X年度	(X+1)年度
単年度	<p>工期の前倒しが可能</p>	<p>★ 公表    ★ 契約    → 工事</p>
ゼロ都	<p>★ 公表    ★ 契約</p> <p>準備期間※</p>	<p>→ 工事</p>

- 事業効果の早期発現
- 事業の平準化 を実現

➤ 平準化の進捗状況などを踏まえ、段階的にサポートを行いながら職員の理解促進を図っていく

# 施工時期等の平準化について

## 3. 取組の具体案について [工事]

### 視点：工事の平準化に係る取組の一層の推進

<前回制度部会資料より>

- 発注者の責務を果たしていくため、引き続き平準化に取り組む
- 平準化の進捗・取組状況を見える化して、継続的にフォローアップ

### 【公表イメージ：工事】

	業種	目標	実績	備考
〇〇局	建築	X.XX	X.XX	(現在の取組や今後の考え方などを記載)
	土木	X.XX	X.XX	
	設備	X.XX	X.XX	
〇〇局	建築	—	X.XX	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ○○○○○○○○○○○○○○○○○</li> <li>• ○○○○○○○○○○○○○○○○○</li> </ul>
	土木	X.XX	X.XX	
	設備	X.XX	X.XX	
...	...	...	...	...
全体	建築	<b>X.XX</b>	X.XX	
	土木	<b>X.XX</b>	X.XX	
	設備	<b>X.XX</b>	X.XX	

- 債務負担行為や繰越明許費、技術者配置準備期間等の効果的な活用をより一層図る
- 今後の平準化の推移を踏まえ、段階的に実効性を高める取組を検討

# 施工時期等の平準化について

## 3. 取組の具体案について【設計等委託】

### 視点：設計等委託に係る取組の促進

＜前回制度部会資料より＞

- 過去の実績の推移を見ると、工事に比べ設計等委託の平準化は、目標と現状の乖離が大きい
- R4年度予算要求を皮切りにこれまでの取組内容の一層の活用を図るとともに、これまでより一歩進んだ取組を検討

### 【公表イメージ：設計等委託】

	業種	目標	実績	備考	(参考) 3月履行期限の割合
〇〇局	設計	XX%以下	XX%	(現在の取組や今後の考え方等を記載)	XX%
	測量	XX%以下	XX%		
	地質調査	XX%以下	XX%		
〇〇局	設計	XX%以下	XX%	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ○○○○○○○○○○○○○○○○</li> <li>• ○○○○○○○○○○○○○○○○</li> </ul>	XX%
	測量	—	XX%		
	地質調査	XX%以下	XX%		
...	...	...	...	...	...
全体	設計	XX%以下	XX%		XX%
	測量	XX%以下	XX%		
	地質調査	XX%以下	XX%		

- 真に必要な業務を除き履行期限が3月とならないように配慮
- 12月までの履行期限を更に促せるよう債務負担行為等を一層活用

} フォローアップ  
予定